

Oracle® WebCenter Sites
国際化リファレンス
11g リリース 1 (11.1.1)
部品番号 : B69408-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites 国際化リファレンス , 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69408-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites Internationalization Reference, 11g Release 1 (11.1.1)

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つかった場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

このガイドについて	5
対象読者	5
表記規則	6
サード・パーティのライブラリ	6
1 環境の構成	7
WebCenter Sites 固有の設定	8
cs.contenttype プロパティ	8
cs.contenttype 変数 (SiteCatalog resargs1 で設定)	8
フォームの _charset_ hidden 変数	8
優先されるエンコーディング	9
XML または JSP 要素で指定されるエンコーディング	9
SetVar タグの使用	9
HTTP META タグの使用	10
Internet Explorer の設定	10
2 國際化のための追加仕様	11
ファイル・システムに格納されるファイル	12
XML および JSP ファイル	12
HTML ファイル	12
SystemSQL 問合せ	12
SystemPageCache 表から参照されるページ・キャッシュ・ファイル	12
属性エディタ	12
アーティクル本体、フレックス・アセット、ユーザー定義アセット	13
XML Post	13
カタログ・ムーバー	13
Sites Explorer	13
Sites Desktop および Sites DocLink	14
WebCenter Sites インタフェース	14
単一言語の制限	14
機能上の制限	15

このガイドについて

このガイドでは、WebCenter Sites で使用する UTF-8 文字エンコーディングをサポートするように Oracle WebCenter Sites 環境を構成する方法について説明します。また、WebCenter Sites で多言語操作を有効にするために必要な WebCenter Sites 固有の設定情報も提供します。最後の章では、特定の国際化要件を持つ WebCenter Sites の機能について説明します。

このガイドで説明しているアプリケーションは、旧 FatWire の製品です。命名規則は次のとおりです。

- *Oracle WebCenter Sites* は、以前は *FatWire Content Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites* を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Explorer* は、以前は *FatWire Content Server Explorer* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Explorer* を *Sites Explorer* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Desktop* は、以前は *FatWire Content Server Desktop* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Desktop* を *Sites Desktop* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: DocLink* は、以前は *FatWire Content Server DocLink* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: DocLink* を *Sites DocLink* と呼ぶこともあります。

対象読者

このガイドは、WebCenter Sites システムのインストール・エンジニア、開発者および管理者を対象としています。このガイドのユーザーは、データベース、アプリケーション・サーバー、Web サーバーおよびブラウザに加え、ファイル・システムのエンコーディングや製品固有のプロパティ・ファイルおよびタグに精通している必要があります。WebCenter Sites ベースの運用を行うには、WebCenter Sites のインターフェース (WebCenter Sites の Admin インタフェースや Contributor インタフェース) のほかに、Sites Desktop や Sites DocLink などのクライアントにも精通している必要があります。

表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- **太字**は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インターフェース要素を示します。
- **斜体**は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字フォントは、コマンドを示します。

サード・パーティのライブラリ

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンス*を参照してください。

第 1 章

環境の構成

この章では、WebCenter Sites で多言語操作を有効にするための環境の構成方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [WebCenter Sites 固有の設定](#)
- [Internet Explorer の設定](#)

WebCenter Sites 固有の設定

注意

- 特定の WebCenter Sites インスタンスに選択した設定は、すべてのクラスタ・メンバー(ある場合)とすべての環境(開発、コンテンツ管理、配信など)で再現する必要があります。
- ここで説明するプロパティや変数が設定されていない場合、`cs.contenttype` プロパティはデフォルトで `text/html` になります。デフォルトでは、出力の文字セットはデフォルトのシステム・エンコーディングになります。

cs.contenttype プロパティ

`futuretense.ini` の `cs.contenttype` プロパティは、システム全体の(グローバル)プロパティで、出力文字のエンコーディングを定義します。このプロパティはデフォルトで `text/html; charset=UTF-8` に設定されます。特定のエンコーディングが必要な場合は値を変更してください。たとえば、出力エンコーディングを `Shift_JIS` にしたい場合は、このプロパティを `text/html; charset=Shift_JIS` に設定します。Sites Explorer では、この設定を使用してデータが適切に表示されます。

cs.contenttype 変数 (SiteCatalog resargs1 で設定)

`cs.contenttype` 変数を使用すると、ページ単位で出力エンコーディングを制御できます。この値は `cs.contenttype` プロパティに定義された値よりも優先されます。値は、`cs.contenttype` プロパティと同じように設定します(「[cs.contenttype プロパティ](#)」を参照)。

WebServices の下のページは `cs.contenttype=application/xml; charset=UTF-8` に設定されることに注意してください。

フォームの _charset_hidden 変数

国際データの入力に HTML の `form` タグを使用する場合は、`_charset_` 入力タイプ変数を `form` 宣言の直後に設定してください。たとえば、次のように指定します。

```
<form action='ContentServer' method='get'>
<input type='hidden' name='_charset_'/>
<input type='hidden' name='pagename'
      value='<%=ics.GetVar("pagename")%>' />
<input type='text' name='name' value='<%=ics.GetVar("name")%>' />
<input type='submit' />
</form>
```

値を指定しない場合、`_charset_hidden` 変数は Internet Explorer ブラウザでのみ有効になります。

優先されるエンコーディング

WebCenter Sites で、より一般的なエンコーディング (Shift_JIS) と密接に関連した特定のエンコーディング (Cp943C など) を使用して HTTP リクエストに対応する必要がある場合、_charset_hidden 変数のみでは不十分です。Internet Explorer では、Cp943C に設定された _charset_value は Shift_JIS に変更されます。そのため、WebCenter Sites はすべてのデータを Shift_JIS で読み取るるように強制されます。この状況を解決するために、次の特別な名前プロパティ構文を使用します。

```
cs.contenttype.< charset>=< preferred_encoding_for_this_charset >
```

たとえば、前述のシナリオで Cp943C を使用するように WebCenter Sites に指定するには、このプロパティを次のように設定します。

```
cs.contenttype.Shift_JIS=Cp943C
```

このプロパティ構造は、前述のような Internet Explorer の動作の競合によって _charset_value の値が変更される特殊な状況でのみ必要になることに注意してください。

XML または JSP 要素で指定されるエンコーディング

XML 要素の <?xml 行のエンコーディングは、ディスク上の .xml ファイルのエンコーディングを指定します。これは JSP でも同じです。ページ・ディレクティブで指定されるエンコーディングは、次の 2 つのこと指定します。1 つ目は、ディスク上の .jsp ファイルのエンコーディングです。2 つ目は、評価される JSP 要素の出力エンコーディングです。これは包含する JSP のエンコーディングに変換されます。XML の場合は、ページの出力エンコーディング (content-type) に変換されます。したがって、cs.contenttype を使用して出力ページに Shift-JIS のような特定のエンコーディングを指定することができますが、JSP は UTF-8 を出力でき、UTF-8 は Shift-JIS に変換されてページ応答の出力ストリームに書き込まれます。次の例は、エンコーディングの指定方法を示しています。

- XML: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
- JSP: <%@ page contentType="text/html; charset=UTF-8" %>

SetVar タグの使用

JSP および XML の setVar タグを使用して出力ページのエンコーディングを制御することもできます。SetVar タグは、あらゆるストリーム出力の前に設定する必要があります。

JSP の場合は、次のように記述できます。

```
<cs:ftcs>
<ics:setvar name="cs.contenttype" value="text/html; charset=UTF-8"
/>
...
</cs:ftcs>
```

XML の場合は、次のオプションを使用できます。

```
<ftcs>
<setvar name="cs.contenttype" value="text/html; charset=utf-8"/>
...
</ftcs>
```

2番目のオプションとして ics.streamheader XML タグを使用できますが、これも、あらゆるストリーム出力の前に設定する必要があり、XML でのみ有効です。

```
<ftcs>
<ics.streamheader name="Content-Type" value="text/html;
    charset=utf-8" />
...
</ftcs>
```

HTTP META タグの使用

前述のいずれかの方法でエンコーディングを指定した場合、META タグは影響を与えません。前述の方法を使用していない場合は、META タグに指定されたエンコーディングによるデータ表示がブラウザで試行されます。

Internet Explorer の設定

Internet Explorer 8 には、デフォルトで、すべての言語がインストールされます。特定言語のテキストを表示できない場合は、ブラウザでその言語を有効にする必要があります。

異なる言語のコンテンツを表示する手順は次のとおりです。

1. 「ツール」 → 「インターネットオプション」 → 「全般」タブを選択します。
2. ページ右下にある「言語」をクリックします。
3. 「追加」をクリックして、すでに表示されている言語のリストに言語を追加します。
4. 「OK」をクリックします。
5. Internet Explorer を閉じてから再度開きます。指定した言語のコンテンツが Web ページで提供されている場合は、それが表示されるようになります。

第 2 章

国際化のための追加仕様

この章では、特定の国際化要件に対応する WebCenter Sites のいくつかの機能を取り上げます。次の各機能について説明します。

- ファイル・システムに格納されるファイル
- 属性エディタ
- XML Post
- カタログ・ムーバー
- Sites Explorer
- Sites Desktop および Sites DocLink
- WebCenter Sites インタフェース

ファイル・システムに格納されるファイル

多くの間接ファイルは、url 列参照のためにファイル・システムに格納されます。ここでは、これらのファイルについて説明します。

XML および JSP ファイル

[9 ページの「XML または JSP 要素で指定されるエンコーディング」](#) を参照してください。

HTML ファイル

HTML ファイルの読み取りは、file.encoding Java パラメータ値を使用して行われます。ファイル内のデータも、最初に格納された方法によって異なります。

SystemSQL 問合せ

SystemSQL は、url 列を使用して、SQL 問合せを保持するファイル・システム上のファイルをポイントします。このファイルをロードする際、エンコーディングは Java デフォルト・エンコーディング (`System.getProperty("file.encoding")`) であると仮定されます。SystemSQL 問合せを作成する方法はいくつかあります (Sites Explorer、テキスト・エディタまたは WebCenter Sites を使用)。通常データは実行時に変数の置換によってマージされるため、問合せの作成には常に ASCII7 を使用することが最善です。

SystemPageCache 表から参照されるページ・キャッシュ・ファイル

ページ・キャッシュ・ファイルの場合は、ファイルのエンコーディングが UTF-8 になるようにページ・キャッシュ・ファイルを扱います。このファイルに対する書き込みと読み取りは WebCenter Sites を通してのみ行うため、このように管理できます。

属性エディタ

属性エディタのテキストは、次の2通りの方法で指定できます。

- 指定されたテキスト領域にテキストを入力します。Form Post によってエンコーディングが決まります。
- 「参照」ボタンを使用して、テキスト・ファイルを選択します。テキスト・ファイルのエンコーディングは、`xcelerate.charset` エンコーディングに指定されたエンコーディングと一致する必要があります。
(`xcelerate.charset` プロパティは `futuretense_xcel.ini` ファイル内にあります。)

アーティクル本体、フレックス・アセット、ユーザー定義アセット

アーティクル本体は、`file.encoding` Java プロパティ値を使用してファイル・システムに格納されます。

XML Post

非 ASCII ファイルを XML Post を介してポストする場合は、Java ファイルのエンコーディングとファイルのエンコーディングが一致する必要があります。たとえば、日本語のファイル(UTF-8 として保存)を UTF-8 システムにポストする場合は、XML Post コマンドを実行する前に次のいずれかを設定する必要があります。

- システム・ロケールを UTF-8 に設定します。
- `-Dfile.encoding=UTF-8` のオプションを XML Post コマンドで指定します。

同様に、ファイルを Shift_JIS として保存する場合は、対応するシステム・ロケールを設定するか、`java file.encoding` オプションを指定する必要があります。

WebCenter Sites は、ポストされた XML ファイルの最初の行である `<?xml` 行のエンコーディングをサポートします。これによって、.xml ファイルの読み取りに関する他のすべてのエンコーディングがオーバーライドされます。

カタログ・ムーバー

`CatalogMover.bat` (UNIX の場合は `.sh`) ファイルを開き、`java` コマンドを変更して `file.encoding` パラメータを含め、カタログに格納された文字を表示するために必要なエンコーディングの値を指定します。ファイル・システムのデフォルト・エンコーディングがカタログに格納されたデータのエンコーディングと一致する場合、この手順は不要になります。

Sites Explorer

Sites Explorer では、`futuretense.ini` の `cs.contenttype` プロパティを正しい値に設定する必要があります。単純な ASCII 文字を表示する場合は、何もする必要はありません。一方、日本語のような複雑な文字を表示する場合は、`cs.contenttype` を次のいずれかに設定する必要があります。

- `text/html;charset=SJIS`
- `text/html;charset=UTF-8`

また、日本語を始めとする各種文字セットを正しく表示するために、場合によってはそれらのフォント・サポートをロードすることが必要になります。たとえば、これを Windows 2003 で行う場合は、「設定」→「コントロールパネル」→「地域のオプション」を選択します。最初のタブである「全般」タブで、「システムの言語設定」というタイトルのリストからサポートする言語を選択し、「適用」をクリックしてから「OK」をクリックします。これにより、Windows インストール CD を挿入するように指示されます。

Sites Desktop および Sites DocLink

Sites Desktop および Sites DocLink は、Windows がサポートする文字セットをサポートします。Sites Desktop または Sites DocLink で特定の文字セットを有効にするには、最初にそれを Windows で有効にします。手順の詳細は、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

WebCenter Sites インタフェース

ユーザーのマシンは、WebCenter Sites インタフェースで表示される文字をサポートできることが必要です。英語以外の言語の場合、ユーザーは必ず次を行なう必要があります。

- 文字を表示するための適切なフォントをインストールします。
- Windows マシンの場合は、ロケールと言語設定が表示される文字をサポートする必要があります。たとえば、日本語の文字をインターフェースに表示する場合は、日本語の文字を表示するように最初に Windows を構成する必要があります。(対象言語をサポートするための Windows の構成手順は、Windows のドキュメントを参照してください。)
- UNIX マシンの場合は、ロケール (LANG および LC_ALL 環境変数) を適切に設定する必要があります。
- ブラウザのエンコーディングを正しく設定する必要があります。

単一言語の制限

コンテンツ管理システムは多言語に構成できますが、ユーザー・インターフェースの一部を 1 つの言語でのみ表示するようにできます。

たとえば、WebCenter Sites データベースの表や列の名前、およびカテゴリやソース・コードなどの個々のアイテムは、1 つの名前のみを持つことができます。つまり、個々の WebCenter Sites フォーム上のテキストのほとんどは多言語で表示できますが、フィールド名やアセット・タイプ名などのアイテムは 1 つの言語でのみ表示できます。

1 つの名前のみを持つことができる WebCenter Sites のアイテムを次に示します。これらのアイテムは、1 つの言語でのみ表示できます。

- アセット・タイプ名
- フィールド名
- アセット名
- カテゴリ
- ソース・コード
- ツリー・タブ名
- サイト名
- ワークフローの構成要素の名前 (アクション、電子メール・オブジェクト、条件、状態、ステップ、プロセス)
- ロール名

- スタート・メニュー・アイテム、検索と新規の両方

複数の言語をサポートするシステムでは、大部分のコンテンツ・プロバイダが使用的する言語を判断してから、その言語を使用してサイト、タブ、アセット・タイプなどの名前を指定する必要があります。

機能上の制限

WebCenter Sites を国際的に使用する際は、機能面で次の制限があります。

- プロパティ・エディタは ASCII のみをサポートします。
- 小数は米国形式で入力する必要があります(「.」小数点記号)。

